

全国大会 参加報告

～ 2023-2024 ～

- ・JFA 第27回 全日本U-18女子サッカー選手権大会
- ・JFA 第47回 全日本U-12サッカー選手権大会
- ・日本高校選抜サッカーチーム選考合宿

JFA 第 27 回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会 参加報告書

兵庫県 2 級審判員 西嶋咲音

-目次-

- 1.はじめに
- 2.大会概要
- 3.事前研修内容
- 4.担当試合の振り返り
- 5.まとめ



1.はじめに

1月3日に開幕いたしました、JFA 第 27 回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会の参加報告をさせていただきます。関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に日頃からのサポートを感謝申し上げますとともに、運営していただいた全ての大会関係者の皆様に感謝申し上げます。

2.大会概要

日程：2024年1月3日(水)～1月8日(月) ※その内、3.4日の1回戦と準々決勝に参加

開催地：大阪府

大会形式：全国9地域において選出された16チームによるノックアウト方式

3.事前研修内容

キーワード『reaction よりも action』

- ①足を止めずに状況把握
- ②縦パスへの意識
- ③Acceleration 初速

→動き出しのポイントに気付くことを次の日からチャレンジする

1級審判員の映像を見ながらペアで主審の動きや視点のポイントを挙げていき、自分達のそれぞれの課題とも比較しながら意見を交わしました。

4.担当試合の振り返り

〈1回戦〉

大分トリニータレディース 6-0 清水フットボールクラブ女子

主審：西嶋咲音 副審：谷添大地氏、井上知昭氏 第4審：岩橋慶典氏 Ins：木口寛氏

6点差がつく試合となりましたが、キックオフから45分間は両者ゆずらない展開が続きました。ファウル自体は少なく特に大きなシーンありませんでしたが、動き方が個人的には難しい試合でした。自分の予測がうまく当てはまらず予想外にも自分の方にボールが来ることもあり、だんだん reaction でポジションを取るような動きになってしまいました。またアドバンテージをかける場所についてもインストラクターの方からご指摘いただき、果たしてその場所で続けさせることが直接FKよりも効果的なのかどうかを改めて考える機会となりました。

良かった点はシグナルの明確さや主導権を持って試合を進めていけたことで、どんな試合でもそれらを表現していきたいと思います。

〈準々決勝〉

ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ 9-0 福山ローザスレディース

主審：佐藤颯音氏 副審：西嶋咲音、吉田凌大氏 第4審：野口健太郎氏 Ins：木口寛氏

2日目も大差がつく結果となり、シュート本数も46-0とかなり一方的な試合でした。副審として難しい場面もなかったため、数少ない判断の場面が目立ってしまわないよう心掛けました。前日に続き木口インストラクターに見ていただきましたが、副審としての役割を十分に発揮し、見映えやフラッグの音なども良かったと言っていました。

主審の佐藤氏は走力が強みでこの試合でもかなりの距離を走っていたので、走力がウィークポイントの自分としては刺激を貰いました。マネジメントが必要な場面であまりいかなかったところは試合後に2人で話をし、審判員同士で“分からない”を解決させるようにしました。

5.まとめ

今回は、主審では自分の弱いところが出て、副審では強みが出た大会派遣でした。どんな試合でも自分の100%が出せるようにすることは当たり前ですが、そもそものレベルアップもまだまだ足りないと感じました。2日目に一緒にセットを組んだ佐藤氏とは、彼女が地域派遣の大会も含めると今回と一緒に参加する4回目の大会となり、良い同期でもあり、ライバルでもあるなど自分では認識しています。

こういう派遣だからこそ貰える刺激があったり、自分の立ち位置が分かったりするので、改めてこんなに何度も派遣していただいていることの有難みを感じました。また今回は大阪開催であったため顔なじみの方が沢山おられ、これまでの全国大会とはまた違った雰囲気でした。年始にも関わらず、試合に携わってくださった方々や2日から一緒に宿泊研修をしてくださったインストラクターの方々にも大変感謝しております。今後も兵庫県や関西で成長できるよう精進して参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

以上で大会参加報告を終わらせていただきます。最後になりましたが、今回派遣を承認して下さった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



審判仲間と一緒に（後列右端）

JFA 第 47 回全日本 U-12 サッカー選手権大会 参加報告

兵庫県サッカー協会 田中 裕隆

はじめに

4級を取った時から目標にしていた「全日を吹く」という目標を達成することができました。この大会に推薦していただいた関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様、当日お世話になった関係者の皆様に感謝申し上げます。

大会概要

- ・正式名称:JFA 第 47 回全日本 U-12 サッカー 選手権大会
- ・開催期間:12 月 26 日～12 月 29 日
- ・開催地:鹿児島県 鹿児島市

1 日目

- 15:00 ホテルチェックイン
- 16:00 開会式・リスペクトワークショップ
- 18:45 夕食
- 20:00～21:30 全体会

全体会

地域協会ごとに自己紹介を行った後、大会要項の確認や、第一試合のセレモニーの確認などを行いました。

その後、ラウンド 16 までともに活動する審判員・地域インストラクターが発表されました。

活動グループ ピッチ6

審判員

浦田大地氏(富山) 高浪遼太郎氏(高知) 中井亜美氏(静岡) 田中裕隆の 4 名

地域インストラクター

柴田恵一氏(埼玉)中園健太郎氏(大分)の 2 名

2 日目(12 月 26 日)

- 6:30 朝食
- 8:00 移動
- 9:30～16:00 試合
- 16:30 移動
- 18:00 夕食
- 20:00～21:30 全体会



試合前の写真撮影風景（主審＝田中）

試合の振り返り

第 1 戦

①第1試合 9:30 キックオフ

フォルツァ松本対 FC リバース 主審 田中裕隆 補助審 高浪遼太郎氏
インストラクター 中園健太郎氏

第3試合 11:30 キックオフ

横河武蔵野 FC 対 FC ガウーシヨ 主審 高浪遼太郎氏 補助審 田中裕隆
インストラクター 中園健太郎氏

第 2 戦

第2試合 14:15 キックオフ

アイリス FC 住吉対デサフィオ C,F 主審 中井亜美氏 補助審 田中裕隆
インストラクター 柴田恵一氏

②第試合 15:15 キックオフ

FC 古河対 FC ルーザ福岡 主審 田中裕隆 補助審 中井亜美氏
インストラクター 李 昇熙氏

①の試合について

当初はカウンターがあってもプレーに追いつけるようなポジショニングをしていました。

インストラクターからのアドバイス

- ・動きの幅が狭いから、広く膨らむようにする
 - ・正しい再開方法をする(キックオフなど)
 - ・シグナル・笛の音がきれい
- というアドバイスをいただきました。

②の試合について

当初は①の試合の反省点を基に、サイドに膨らみをつけるように意識しました。

自分の反省

- ・①の試合でとれなかった足のファウルをとろうと意識しすぎたために、手のファウルを見逃してしまった。

インストラクターからのアドバイス

- ・シグナルを出すのが早い&長い
- ・試合終了後のタッチライン近くにいた監督に過度な喜びで警告を出すべき
- ・アフターをみるために、目を残しておく
というアドバイスをいただきました。

全体会

技術と審判の協調として、JFA 競技部の鈴木さんが来てくださり、JFA の今後のビジョンと JFA の約束 2050 の話がなされた後、クリエイティブでたくましい選手の育成が大切とおっしゃっていました。そのあと、審判員としてなにができるのか話し合いました。

- ・JFA のビジョンとは

①サッカーの普及 ②サッカーの強化 ③社会の発展への貢献
の3つの展望

- ・JFA の約束 2050 とは

JFA が 2050 年までに、すべての人々が喜びを分かち合うために達成させる 2つの目標

- 1、サッカーファミリーを 1000 万人にする。
- 2、FIFA ワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームになる。

その後、警告・退場者の共有やユニフォーム規定の変更点などの確認を行いました。

3 日目(12 月 27 日)

6:30 朝食

8:00 移動

9:00~16:00 試合

16:30 移動

18:00 夕食

19:00~21:00 全体会

試合の振り返り

第 3 戦

第2試合 10:30 キックオフ

横浜 F・マリノス対オオタ FC 主審 浦田大地氏 補助審 田中裕隆

③1 次ラウンド交流戦

第 1 試合 13:15 キックオフ

グランセナ新潟 FC 対ミルマエ FC 主審 田中裕隆 補助審 高浪遼太郎氏

インストラクター 中園健太郎氏

③の試合について

1日目の反省点を基に、幅をとるポジショニングを意識しました。

インストラクターからのアドバイス

- ・串刺しになっていることが多かった。
 - ・シグナルがきれいだった。
- というアドバイスをいただきました。

全体会

この大会で学んだこと、全国ならではの違い、次の試合にチャレンジしてみようと思うことをグループで話し合いました。

大会で学んだことでは、選手や監督とのコミュニケーション、時間や物の管理、事前にチームの情報を得るといった意見が出てきました。

また、全国ならではの違いでは、都道府県によってチームの雰囲気、戦術や、審判員のサッカー観、マネジメントの仕方の違い、などの意見が出ました。

その後、審判員 32 名のうち、準決勝・決勝を担当する審判員が発表されました。

4日目(12月28日)

6:30 朝食

8:00 移動

9:00～12:00 マクドナルドフレンドリーカップ

13:30 解散

試合の振り返り

札幌 JrFC 対リノス FC U-12 主審 田中裕隆

ISS 対グランセナ新潟 FC 主審 田中裕隆

試合について

この大会で出たポジショニングやボールの出し手と受け手が同じ視野に入るように体の向きを意識しながら笛を吹きました。

また、カウンターに追いつけなくなる場面が何度かあったので、日々のトレーニングで改善したいです。

最後に

初めて全国大会に参加して、参加する前は非常に緊張しましたが、自分が持っているものをすべて出し切って、無事やり遂げることが出来ました。

また、全国から集まったユース審判員とインストラクターの皆さんと交流し、ピッチ外でプレーのことを話し合ったり、試合を見たりしている中で、多くのことを学び、自分ももっと努力しなければならないと思いました。

この大会で学んだことを今後の審判活動に活かして日々邁進していきます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



日本高校レフェリー選抜参加報告

兵庫県サッカー協会 田中裕隆

はじめに

この度、1月20日より、静岡県で開催されました、日本高校選抜サッカーチームの選考合宿に審判員として参加してきましたので、ご報告させていただきます。このような合宿に推薦いただきました、兵庫県サッカー協会、顧問の先生、期間中ご指導いただきました東京都高体連審判部の先生方、その他関わって頂いた皆様に感謝申し上げます。

・概要

期間:令和6年1月20日～23日

合宿先:静岡県御殿場市時之栖スポーツセンター

参加審判員

原田 脩司氏(福島県)林原 晴氏(東京都)岸本 大和氏(新潟県)
塩谷 悠斗氏(愛媛県)丸山 駿太郎氏(鹿児島県)田中裕隆の6名

1日目(1月20日)

13:00 集合

14:30～16:00 プラティカルトレーニング

17:00 入浴

18:00 SNS 講習

19:00 夕食

20:00～21:30 ミーティング

・プラティカルトレーニング

ペナルティーエリア内のポジショニングや、サイドチェンジへの対応を学びました。

・ミーティング

プロフェッショナルレフェリーの中村 太氏より、ミスをした時のメンタル面での対応を学びました。

- ・まず、ミスをした時、なにがいけなかったのかを客観的に分析して、次に 繋げる。
- ・過去のミスジャッジやネット上での誹謗中傷など、自分ではコントロールできないものに囚われず、自分がやるべきことだけにフォーカスする。

とおっしゃっていました。

最後に、中村氏は「今やってもらいたいこと」を以下の4つ挙げられました。

- 1.自分のミスを受け入れる
- 2.誠実さ(強さ)を身に着ける
- 3.謙虚な気持ちを忘れないで
- 4.自分を信じて

その後、明日からの試合のレギュレーションの確認を行いました。

2 日目(1 月 21 日)

7:00 朝食

9:00～11:30 練習試合

12:00 昼食

13:00～15:30 練習試合

17:00 入浴

18:00～18:45 試合の振り返り

19:00 夕食

20:00～21:00 ミーティング

担当した試合

U-18・U-17 対日本体育大学

主審:1 本

副審:3 本

主審の振り返り

試合を見ていただいた中村 太氏より、「ボールが動いてから動き出しているので、プレーを予測して動き出そう」と、アドバイスをいただきました。

副審の振り返り

インストラクターとして担当された高体連の先生からは、

- ・オフサイドのフラッグアップをもう少し早く
- ・主審と目をもっと合わせる

と、アドバイスをいただきました。

ミーティング

まず、一人2分ずつ、地元を英語で紹介していきました。

その後、「自分がレフェリーであること」は「日本代表 W 杯優勝」とどう繋げていき、一人ずつ発表するというのをしました。

私は、あまりそこまで考えたことがなく、非常に難しかったです。私がレフェリーをする意義を考えるきっかけになりました。

3日目(1月22日)

担当した試合

U-18・U-17 対東京国際大学

主審:1本

副審:3本



主審の振り返り

しばしばプレーに追いつけない時がありました。

そこで、俵元希先生より、パサー目線になって、予測するというアドバイスをいただきました。

副審の振り返り

フラッグアップがきれいと言われたので、引き続き続けていこうと思いました。

ミーティング

映像を用いて振り返りをした後、俵元希先生より審判を続けて行く上での、心構えなどを教えていただきました。

4日目(1月23日)

7:00 朝食

8:00～10:30 練習試合

12:00 昼食

14:00 解散

担当した試合

U-18 対 U-17

副審:2 本



副審の振り返り

4 日間で学んだことのすべてを出し切ることができました。

最後に

今回の合宿で一番学んだことは、審判をする上での心のコアとなるものを持つことです。この合宿に参加する前は、特にコアとなるものを持たず、ただ楽しいという動機だけで、審判をしていました。しかし、ただ楽しいという理由だけでは、強い信念を持って高いレベルでやってきた選手たちと同じピッチに立てないと感じました。

これからは適確に判定を下し、いつもベストな位置からプレーを見て、選手達が安全にプレーできる環境を作れる審判になろうと思いました。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



富士を背に、全てを出し切る大会に。

切磋琢磨した審判仲間とともに
(左から 2 番目)

